



「大連英歌石科学城」について —世界最先端の「科学城」を目指して—

北陸銀行 国際部
大連駐在員事務所
金春梅

1. はじめに

今年の1月14日、「大連英歌石科学城」（以下、英歌石科学城）の開発建設がスタートしました。そして、2月25日には英歌石科学城のプロジェクト説明会がオンライン・オフライン両形式で開催されました。当行の経済協力協定締結先である大連市事務局からの紹介で、当事務所も説明会に参加しました。説明会の参加企業数は1,000社近く、アクセス数は16.65万回に昇り、関心の高さを窺わせました。

これに先立つこと2月21日には上海でも説明会が行われ、上海の著名大学や研究所のほか数多くの科学技術企業、金融機関の代表らが参加しました。国内外の最上級研究機関や傑出した科学研究人材の招集を目指しています。

英歌石科学城は、総面積44.3km²、大連市中心部から車で旅順方向に50分ほどの大連高技術産業園区（以下、大連高新園区）内に位置しており、大連では有名な「英歌石植物園」に隣接し、近くには「大連金龍寺国家森林公园」や「大連西郊国家森林公园」もあり、自然環境に恵まれた場所です。



2. 英歌石科学城の取り組み

英歌石科学城は、2035年には国際的影響力を持つ科学都市となるべく、次の2研究事業に取り組んでいます。

- (1) 中国科学院大連化学物理研究所（以下、大連化物所）、大連理工大学と連携して水素などのクリーンエネルギー創造センターを作る
- (2) 高性能アルミニウム合金や分散元素などの新素材産業にも力を入れる

そのための第一歩が、大連化物所建設の「中国科学院大学エネルギー学院」です。同学院はエネルギー専門人材の育成のための学校で、今年1月までに既に20の科学研究機関が参画し、1,000人近い国内外の科学研究者が参集しています。二歩目となる「大連X線自由電子レーザー装置研究室」の建設も始まっています。

英歌石科学城は、将来的には基本施設のほか実験研究開発区、産業インキュベーション区、ビジネスサービス区、居住区などを配し、単に公園や居住施設のある科学都市だけでなく、スマートシティ、ゼロカーボンシティなどの高次都市機能を兼備したエリアとして整備する計画です。



【左：建設中の英歌石科学城、右：中国科学院大学エネルギー学院が建設完了（事務所撮影）】

3. 英歌石科学城に対する支援

英歌石科学城は、大連市の「2022年政府活動報告」の今年度重点計画に明記されており、政府としても5年後の全面運営に向け、全市を挙げて強力に推進していく方針です。

また1月14日の着工日には大連市高新園區でいくつかの調印式も行われました。

金融部門では、国家開発銀行、農業発展銀行、中国銀行、中国農業銀行、中国工商銀行、中国建設銀行、交通銀行などの金融機関が英歌石科学城建設に向け与信額合計500億元（約9,000億円）超となる金融サポートに関する覚書を締結しました。

学術部門では、大連市政府が大連理工大学、大連海事大学、東北財経大学、大連交通大学、大連外国語大学、大連東軟信息学院など7大学と発展戦略協力協定に調印しました。英歌石科学城を多方面から支援しようという動きが見られます。

4. おわりに

英歌石科学城の協力パートナーである大連化物所は、前身が南満州鉄道(株)中央試験所で、富山大学を含む海外の多数の大学と共同研究を行っています。もう1つの協力パートナーである大連理工大学は、金沢大学・富山大学・富山県立大学との提携校です。当行主催の海外トレーニー派遣研修団が大連に来訪した際には、いつも大連理工大学を訪問し日中大学生の友好交流を行いました。

英歌石科学城の開設に伴い、将来はより多くの日本の大学や研究機関との研究交流が活発に行われると予想します。そして、その研究成果が取引先を含むたくさんの企業や社会に還元され、「地域共栄」がさらに実現されることを期待しています。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局

〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F

((株)人材情報センター内)

TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565

E-mail: info@chojo-hokugin.jp